

新歴史の見える風景

福井職業紹介所

戦前、市の社会事業の核となる

日ノ出下町 現福井市中央1丁目1街区



△職業紹介所は日ノ出下町、現在の駅前南通り中央1丁目1街区、ハビリンの建物の南側部分に市の社会事業の拠点施設として建設された。



当時の職業紹介所全景▶

時代劇にも登場する「口入屋」は、奉公人などを仲介する職業で、江戸時代に発達した。明治に入っても手数料を得て仲介を行っていたが、明治中期以降、各府県の営業許可が必要となるなど、次第に規制が強まっていた。

第一次世界大戦後、戦後恐慌によって企業倒産や失業が急増し、労働市場の混乱が深刻化した。国際労働機関（ILO）が無料の公営職業紹介所の設置を加盟国に義務付けたため、日本でもその整備が求められた。その結果、大正10年（1921年）7月に「職業紹介法」が施行され、職業紹介は原則無料となり、その経費は市町村が負担することと定められた。

福井県では、法の施行以前、大正9年に県警察部が相談紹介部を設置し、僧侶を中心とする社会事業団体も「福井職業紹介所」を開設・運営していた。しかし、職業紹介法の施行後は、県警察部の相談紹介部は閉鎖され、社会事業研究会の紹介所も認可を受け継続し

たものの、やがて閉鎖に至った。

代わって市の職業紹介所がこれらの業務を引き継ぐこととなり、市は所長に元陸軍大尉で福井県労働同志会顧問の清田栄治を任命した。紹介所は福井駅近くの南通り（日ノ出下町）に、建設費5,000円を投じ、鉄筋コンクリート造3階建てで大正11年11月に完成し、翌年1月業務が開始された。清田所長の構想を反映し、市の社会事業拠点として、1階は民間に委託されて、市指定の種類・品質・価格で廉価な食事（朝食・昼食・夕食の他麺類など）を提供する公衆食堂が設けられた。2階は事務所、3階は三畳間六室・四畳間1室（計14名収容可能）の共同宿泊所とされた。さらに、福井市弁護士会の推薦による2名の弁護士が担当する無料法律相談所も併設された。

紹介所業務に対する市民の信頼は厚



く、昭和2年（1927年）6月、清田所長は県外出身者として初めて助役に選出された。選出後もしばらく所長を兼務したが、その後、二代目所長松下格太郎に職を譲った。松下は清田の方針を引き継ぎ、昭和8年には、同じ南通りで紹介所の向かいの位置に公衆食堂部門を移転し、空いたスペースに授産場を設置した。授産場は、織物工場などで就業が困難な女性を対象に、ミシン・編み物・刺繍などによって自立を促す事業であった。

職業紹介所は昭和13年に国営化された。その後、戦時下には国民を労働力として強制的に配置・管理する機関へと変質を余儀なくされたが、松下はその後も戦時中の労務行政、さらに戦後の労政業務に従事した。退任後は、放送業、駅前開発、金融事業など福井の経済界で活躍した。（文責 奥山秀範）

昭和40年代、南から北に向かって写した南通り、紹介所は右奥、片山薬局の看板の場所にあった。



◀再開発がすすむ南通り、移転した公衆食堂は写真右側の位置にあった。